

ウ 「授業に取り入れる手立て」実践例

研究委員や所員の実践から、授業に取り入れる手立ての実践例を紹介します。

つかむ段階

「授業に取り入れる手立て」の実践例です。



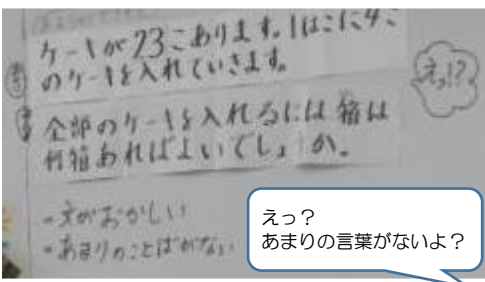
(ア) 資料の提示を工夫する。

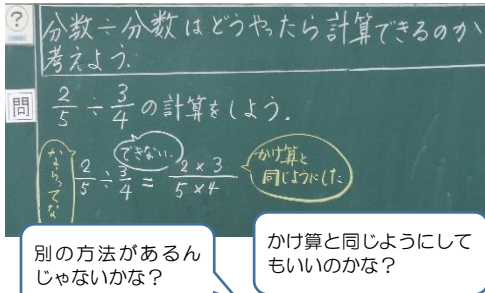
<p>単元名 広さを調べよう（4 学年）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板で、本時の問題の図形の一部を見せた。 既習の形（長方形）から見せていくことで、既習を使ったらできそうという見通しをもたせてから、全体を見せた。 <p>目指した児童の姿 本時の課題に「考えてみたい」「やってみたい」などと、意欲的に取り組む姿。</p>									
<p>単元名 倍数と約数（5 学年）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 長方形から合同な正方形を切り取る場面をイメージ化するために電子黒板を活用した。 1 辺 1 cm の正方形に切り分ける場面をアニメーションで見せた。 他の大きさの正方形もできるだろうかという疑問をもたせた。 <p>目指した児童の姿 本時の課題に取り組む必然性を感じ、「問い」を明確にもつ姿。</p>									
<p>単元名 速さ（6 学年）</p> <table border="1" data-bbox="391 1299 638 1444"> <thead> <tr> <th>動物</th> <th>道のり</th> <th>時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ダチョウ</td> <td>180m</td> <td>8秒</td> </tr> <tr> <td>キリン</td> <td>125m</td> <td>8秒</td> </tr> </tbody> </table>	動物	道のり	時間	ダチョウ	180m	8秒	キリン	125m	8秒	<ul style="list-style-type: none"> 情報不足の場面を設定し、写真だけでどの動物が速いかを考えさせた。そして、速さが分かるために、「どんな情報が欲しい？」と問い掛けた。 走った時間だけ⇒時間が同じで道のりが違う二量⇒時間も道のりも違う二量の順に提示していくことで、「どちらかが揃っていたら比べられるけど、どちらも揃っていない場合はどうしたらいいのだろうか？」という問いをもたせた。 <p>目指した児童の姿 本時の課題に取り組む必然性を感じ、「問い」を明確にもつ姿。</p>
動物	道のり	時間								
ダチョウ	180m	8秒								
キリン	125m	8秒								

(イ) 既習との違いを感じさせる。


<p>単元名 分数のわり算（6 学年）</p> <p>問 1 L のペンキで、板を $\frac{2}{5} \text{m}^2$ ぬれました。このペンキ 1 dL では、板を何 m^2 ぬれますか？</p> <p>わける数が整数だったらできるけど・・・</p> <p>わける数が分数だったらどうなるのかな？</p> <p>$\frac{3}{4}$ dL だったら・・・？</p>	<p>「□dL のペンキで板を $\frac{2}{5} \text{m}^2$ ぬれました。このペンキ 1 dL では板を何 m^2 ぬれますか？」と問題を提示し、「□の数が整数だったらできるが、分数だったら・・・？」と、既習との違いを感じさせた。</p> <p>目指した児童の姿 本時の課題に取り組む必然性を感じ、「問い」を明確にもつ姿。</p>
--	--


(ウ) 考えや予想がずれる場面を設定する。

<p>単元名 あまりのあるわり算 (3 学年)</p> 	<p>「□個のケーキがあります。1箱に4個のケーキを入れていきます。」という問題を提示し、問題文の続きを考えさせた。あまりのあるわり算を学習してきた児童が、「何箱できて何個余る？」と予想した後、「全部のケーキを入れるには箱は何箱あればよいか」とわり切れる時の問題文が続くことを提示することで、予想とのずれを感じさせた。</p> <p>目指した児童の姿 本時の課題に取り組む必然性を感じ、「問い」を明確にもつ姿。</p>
--	--

<p>単元名 分数のわり算 (6 学年)</p> 	<p>分数÷分数の計算の仕方を、前単元で学習したばかりの「分数×分数」の計算方法と同じようにできないかという考えが児童から出た。実際にやってみることで、本当にこれでできるのだろうか? という問いをもたせた。</p> <p>目指した児童の姿 本時の課題に取り組む必然性を感じ、「問い」を明確にもつ姿。</p>
--	--

(I) 身近な題材から問題を設定する。

<p>単元名 比例 (6 学年)</p> <p>比例の性質を使って、袋の中のクッキーの数を考える。</p>  <p>何枚になるだろう?</p> <p>難しそうだけど、できそう!</p>	<p>実際にお店で売ってあり児童が知っているお菓子を題材とし、「1袋に入っている枚数が分からないクッキーを、クラスみんなで分けたいけど足りる?」と問題を提示した。</p> <p>目指した児童の姿 本時の課題に「考えてみたい」「やってみたい」などと、意欲的に取り組む姿。</p>
--	---

<p>単元名 およその体積 (6 学年)</p> <p>2つのコップのおよその容積の求め方を考える。</p>  <p>Bのコップの方がたくさん入りそう!</p> <p>でも、AのコップはBよりも高さがあるよ。</p>	<p>見た目だけでは、どちらの容積が大きいかを判断しにくいコップを2つ用意し、「ジュースをたくさん飲むことができるのはどちらのコップかな?」と問題を提示した。</p> <p>目指した児童の姿 本時の課題に「考えてみたい」「やってみたい」などと、意欲的に取り組む姿。</p>
--	---